

example

6 中・高	国 語
----------	--------

解答時間 90分

受験番号

氏 名

記述式 の表記がある問題は記述式解答用紙に、その他の問題はマーク式解答用紙に答えなさい。

(9 枚のうち 1 枚目)

I 次の文章ⅠⅡを読んで、後の問いに答えなさい。

記述式 表記がある問題は記述式解答用紙に、その他の問題はマーク式解答用紙に答えなさい。

(9枚のうち 3枚目)

だから、いざというときには、こちらのペースで自分の気持ちで電話をかけて呼び出すということもしますが、大切なことは、それが望ましい方法でないということです。よい方法ではないが、自分の気持ちとしては致し方がないからする。しかし、だんだんとクライアントに主導権をもたせるようにしていくことを心がけねばなりません。

(河合雄雄『カウンセリングの実際』より)

問1 線部 a・c の読みをひらがなで、b・d の片仮名を漢字で書きなさい。 [記述式]

問2 線部 A「その兆し」とは、共同生活をいとなむなかでのどのようなことの「兆し」か、当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。 [ア]

- ① 多くの人が他者によるメンタルなケアを必要とする状態に置かれている。
- ② 滑らかであるはずの関係がだれかのところで軋み、対立や軋轢が生じる。
- ③ だれかが関係それじたいをなすりたせないような丁寧な理解不能の存在となりだす。
- ④ 「聞き役」に徹して、言葉の感触から「問題」をさぐるが、ついに手に負えないと感じる。
- ⑤ シヤーマンの役をつとめる高年齢者が、その「魂の震え」に耳をそば立てたり代弁したりする。

問3 線部 B「近代」という時代に起こった社会の構造変化に当てはまるものを、次の①～⑤からすべて選びなさい。 [イ] ※解答はすべて [イ] の欄にマークすること。

- ① 聞き役、代弁者といった役割の登場
- ② 地域社会、会社などのシステム化
- ③ 行動様式、価値規範のシステム化
- ④ 社会の中間領域というものの出現
- ⑤ 個人が社会というシステムに直結

問4 線部 C「ぬえのような」に見られる表現技法として最も適当なものを、次の①～⑥から一つ選びなさい。 [ウ]

- ① 直喩 ② 隠喩 ③ 擬人法 ④ 倒置 ⑤ 反復 ⑥ 体言止め

問5 線部 D「紙めるように読む」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。 [エ]

- ① 批判的に読む ② 隅々まで読む ③ 楽しんで読む ④ いい加減に読む ⑤ 素早く読む

問6 線部 E「カウンセリングの一つの本質はこの、《時間をあげる》というところにあるのではないかと、わたしは読みながらおもった」とあるが、ここで、筆者は「カウンセリング」をどのようなものであると捉えたのか、八十文字以内で説明しなさい。 [記述式]

問7 【文章Ⅱ】は、「文章Ⅰ」で筆者が触れている『カウンセリングの実際』からの引用である。【文章Ⅱ】を読み、「文章Ⅰ」の~~~~~線部「よい方法ではないが、自分の気持ちとしては致し方がないからする」という河合雄雄さんの考えに当てはまる内容を、次の①～⑤から一つ選びなさい。 [オ]

- ① クライエントが来ないときに電話をかけると、クライエントはカウンセラーの熱心さにひかれてやってくるようになるため、かけないようになっているが、どうしてもクライエントに主導権をもたせたいという気持ちがある場合は、クライエントに電話をかける。
- ② クライエントが来ないときに電話をかけると、クライエントの心がゆれはじめ、行こうか、やめておこうかと悩ませることになるため、かけないようになっているが、どうしてもカウンセラーのペースで事を運びたいという気持ちがある場合は、クライエントに電話をかける。
- ③ クライエントが来ないときに電話をかけると、クライエントはとっさに嘘をついてしまい、その後、カウンセリングから足が遠のいてしまうようになるため、かけないようになっているが、どうしてもクライエントの気持ちを知らしたいという気持ちがある場合は、クライエントに電話をかける。
- ④ クライエントが来ないときに電話をかけると、クライエントは即座に言いわけを考えることができずあわてふためいて、カウンセリングに來なくなる恐れがあるため、かけないようになっているが、どうしてもこのカウンセリングをやりたいという気持ちがある場合は、クライエントに電話をかける。
- ⑤ クライエントが来ないときに電話をかけると、クライエントが応答に困って、カウンセラーが原則を破って電話をかけていることをとがめる恐れがあるため、かけないようになっているが、いくら考えてもこのクライエントがこの時間に来ないということが腑に落ちない場合は、クライエントに電話をかける。

記述式の表記がある問題は記述式解答用紙に、その他の問題はマーク式解答用紙に答えなさい。

(9枚のうち 8枚目)

④ ある中学校では、三年生の「C読むこと」の授業において、「C読むこと」(2)「詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」として、加賀千代女の複数の俳句の俳句の中から、好きな俳句を一つ選び、批評する言語活動を行う。

次のA～Eは、加賀千代女作品である。後の「生徒IとIIの話し合いの様子」は、そのA～Eについて二人の生徒が話し合ったものである。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

- A 松の葉もよみつくすほどすみけり
- B 百なりやつるひとすじの心より
- C 出そこなふた顔してひとつ蛙かな
- D 白雨や奇麗な空にして戻り
- E 松風のぬけて行たるしぐれかな

【生徒IとIIの話し合いの様子】

生徒I A～Eの句を通してみると、千代女の俳句は、自然を詠んでいる句が多いね。

生徒II 確かにそうだね。作者が自然から季節を感じ取っている様子が窺えるし、読み手の自分たちも、その季節を味わうことができるね。

生徒I そうだね。千代女は江戸時代の俳人だけれど、身近なものを詠んでいるから親近感がわく。イメージがしやすいよね。

生徒II 例えば、Bの句とは違って、(・a)の句であるAやCの場合、さらに情景が浮かびやすいのかもしれないね。

生徒I それに加えて、A～Eのどの句にも(・b)が使われているから、感動がストレートに伝わってくるというのも、親近感につながっていると思うな。

問1 A～Eの句について、季節及びその季節の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。

ア

- | | | | |
|------------|------|-----------|------|
| ① A 季節…松の葉 | 季節…夏 | ② B 季節…つる | 季節…春 |
| ③ C 季節…蛙 | 季節…夏 | ④ D 季節…白雨 | 季節…秋 |
| ⑤ E 季節…しぐれ | 季節…冬 | | |

問2 線部「千代女は江戸時代の俳人」とあるが、江戸時代に活躍した俳人の作品ではないものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 斧入れて香におどろくや冬木立
- ② 名月を取てくれるとなく子かな
- ③ いくたびも雪の深さを尋ねけり
- ④ 秋深き隣は何をする人ぞ